

「社会に存在するバリアを少しでも小さく」 重度障がい者用車椅子製造で 福祉社会を支えるものづくり

コーヤ
システムデザイン

「社会に存在するバリア（障壁）を少しでも小さくできるような仕事をしたい」

そんな松野史幸社長の思いから立ち上げたコーヤシステムデザイン（町田市小山町、042・798・4644、<http://www.koyasys.com/>）は、町

田市内に自社ビルを構える車椅子の製造会社である。車椅子と言っても高齢者用の既製品ではなく、重度の障がいを持つ子ども

たちを対象にした、個性の高い製品を扱う。大学卒業後、30年以上福祉機器業界に携わってきた松野社長の豊富な知識と技術を駆使し、お客様それぞれのニーズに合った車椅子をご提供している。

同社の代表的な製品には、子ども用車椅子「グルービーII」などがある。これらの製品は特許を取得した独自の構造を持ち、成長期の子どものたちの状況変化に適応して、やさしく、しっかりと子どもたちの身体を支えてくれる。

また、今年から販売を開始した重度の障がいを持つ高齢者向け車椅子「巧」は、これまで車椅子に



● 同社の子ども用車椅子最新モデル「グルービーII」



● 重度障がいを持つ高齢者用車椅子「巧」

採用されたことのない「バックサポート中折れ機構」など、高齢者の特性に合った構造を備えている。この車椅子を利用することで、呼吸や嚥下が楽に行えるようになるという。

松野社長は「この仕事は、本当に必要とされるものをつくることのできる、日本では数少なくなった製造業のひとつです。障がいを持つ方たちが少しでも快適に暮らせるよう、お手伝いができれば嬉しい」「使用する方と社会との間のバリアが少し小さくなるようなものづくりがしたい」と、夢を語ってくれた。